

2月20日(土)から、豊橋市美術博物館で移動美術館が始まっています。愛知県美術館のコレクションを、広く県民の皆様にご紹介する移動美術館は、今年で16年目にあたり、年に一度、知多半島、三河山間部・海浜部などの県内各地で開催してきました。今年は、「ひかり・いろ・かたち」をテーマに、愛知ゆかりの作家を含む近代日本洋画から現代美術までの洋画、彫刻、日本画の国内外の作品74点をご紹介します。



↑ 会場入口

近代の洋画を拓いた高橋由一を始め、明治期に外光派として新しい絵画の作風を広めた黒田清輝、久米桂一郎などの近代日本洋画家、抽象的な表現を追究した斎藤義重や元永定正、現代の日本画壇を代表する平山郁夫や東山魁夷、豊橋ゆかりの中村正義や高畑郁子など、また海外作家では詩情豊かな作風で知られるパウル・クレーや幾何学的な表現で描き続けたアド・ラインハート等々、豊橋市美術博物館の開館30年を記念して、通常よりも規模を拡大した開催となっています。

(→出品作品リストはこちら)



↑ 第1展示室



↑ 第2展示室



↑ 第3展示室

愛知県美術館と豊橋市美術博物館の交流は古く、豊橋市美術博物館の開館1周年記念（1980（昭和55）年）に、現在の愛知県美術館の前身である愛知県文化会館美術館の所蔵作品による展覧会を開催したことにさかのぼります。以後、1989（平成2）年までほぼ毎年（1988年は開催せず）、愛知県美術館のコレクションをご紹介してきた経緯があり、今回は、実に20年ぶりの開催となりました。今回の展覧会には、木村定三コレクションなど最近の収集作品まで展示しておりますので、以前の展覧会のご記憶があるかたにも、新しい印象を持って愛知県美術館のコレクションをご覧いただくことができるでしょう。

さて、展覧会初日には、愛知県美術館長と豊橋市美術博物館長による記念対談が行われました。記念対談は、愛知県美術館長が、愛知県文化会館美術館時代に始まる作品収集の歴史を作品をご紹介しながらお話し、時折、豊橋市美術博物館長がご質問されるといった形式で進められました。愛知県美術館のコレクションが、理念をかかげ美術館を建設した桑原元知事の知見により始められたという話に、あらためてこれまで関わってきた方々の努力に感謝したいと思いました。

展覧会場では、今回の出品作家で、豊橋市在住の日本画家の高畑郁子さんの姿がありました。高畑さんは、記念対談の会場でも、最前列の席で、熱心にご聴講されていました。



↑ 講演会風景



↑ご自身の作品の前のお元気な高畑郁子さん

会場外には、子ども向けのコーナーを設置しています。キッズガイドやワークシートなどの鑑賞補助資料やぬり絵をご用意しています。実は、今回の展覧会にあたって作成した2種類のキッズガイドは、昨年12月から1月に数回わたって、豊橋市の教員の有志の方々にお集まりいただき、ご意見をいただいて作成したものです。教員の方々の現場での経験が活かされた内容で、クイズや質問形式に楽しんで読んでいただけることでしょうか。お子様にはお手にとり、会場を回っていただければと思います。ご協

かいただいた先生方どうも有難うございました。



↑キッズコーナー 出品作品のぬり絵もできます。



↑有志の教員による、キッズガイド作成ワーキンググループ

移動美術館では、これから様々なプログラムが開催されます。平日には、学校団体の児童・生徒に、愛知県美術館の学芸員が解説を行っていますが、一般の方にも7日（日）、14日（日）の午後2時から、愛知県美術館学芸員と豊橋市美術博物館学芸員の対談形式による、会場での解説会を開催します。こうした形式での初めての試みに、いまから担当学芸員は少し緊張気味です。

また、春休み期間中には、ロビーコンサート22日（月・祝）も開催します。音楽に関連した出品作品に合わせて、プロのチェロ奏者による演奏が行われます。小学生対象のワークショップ（20日（土）、25日（木））も予定されており、盛りだくさんです。詳細については、ウェブサイトやあるいは会場の豊橋市美術博物館に直接お問い合わせをしてお確認のうえ、ご参加ください。（電話 0532-51-2882）



↑グッズ売れ行き好調 図録、絵葉書、ストラップなど

開会してすぐの週末2日間で来館者が1000人を超え、この一週間でも3200人余りの方の入場者となり、豊橋市民の皆さんの高い関心がうかがわれます。何度ご入場されても無料ですので、春めいてきた豊橋公園のお散歩の折にでも、是非ご来館ください。

(M.F.)